

平成16年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 47 ※記入不要	提案機関名 湘南地域農業改良普及センター
要望問題 施設キュウリにおける減農薬・減化学肥料栽培体系の確立	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 近年、減農薬・減化学肥料栽培に対する関心が高まりエコファーマーの申請者も増加し始めています。 しかし、育苗を行う果菜類ではエコファーマーの認定基準となる栽培基準（特に防除）が現実にあっていない場合が多く、基準の見直しまたは基準をクリアできる栽培体系（特に防除基準）作りが求められている。 この際、試験研究機関で、実際に栽培試験を行い導入可能な技術としての体系化が望まれる。 JA湘南施設野菜部会 113名 2,258a	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
研究対応区分	①研究所対応 ②委託研究 ③共同研究 ④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所() ②根府川試験場 ③三浦試験場 ④津久井試験場) ⑤畜産研究所 ⑥水産総合研究所 (⑦内水面試験場 ⑧相模湾試験場) ⑨自然環境保全センター

* ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部 署	生産技術部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名 (①、②、④の場合)	環境と調和した環境保全型農業生産技術の体系化、実証研究 (4) 施設キュウリにおける環境保全型栽培技術の実証
対応の内容等	施設野菜の中でも特に肥料、農薬使用量が多いキュウリにおける環境保全型栽培体系の確立は危急を要するものと考えています。 平成15年度より、上記研究課題において所内プロジェクトを開始いたします。現在のところ、以下のような技術を検討する予定です。研究遂行にあたっては現地調査等、ご協力くださるようお願いいたします。 (1) ヒートパイプを利用した育苗土の消毒効果 (2) 施設キュウリにおける環境保全型栽培の経済性評価 (3) ネコブセンチュウに対する土壌消毒法 (4) キュウリ地上部病害の環境保全型防除法 (5) 養液土耕栽培による減窒素施肥量の実証 (6) うどんこ病抵抗性品種利用技術の開発 (7) ハウス抑制へのケイ酸肥料施用の影響 (8) 施設密閉による一時的な高温処理が病害虫抑制におよぼす影響 (9) マイクロウェーブ利用による土壌消毒
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
備考	